

平成29年12月18日

静岡県知事 川勝平太 様

ふじのくに県民クラブ
会長 岡本 護

平成30年度予算編成に対する提言

日頃から県政発展のためご尽力を賜り、心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックを間近に控え、国内経済の状態は、戦後2番目の長期間となる景気拡大を記録するなど、統計的には改善しつつあります。しかし、最近の高水準の有効求人倍率が示すように人手不足と言われているにもかかわらず賃金の伸びは鈍く、消費も低迷するなど、県内外の実体経済は引き続き厳しい状況にあります。

加えて、ピーク時には379万人を超えた県人口は、今年の11月時点で367万人余まで減少しています。そして、将来人口推計が示すように、少なくとも今後数十年間は人口減少そして高齢化が更に進行することが確実です。

一方、引き続き強化が求められる地震・防災対策やインフラ老朽化対策等に必要な経費、高齢化に伴う社会保障費増等、財政需要は一層増大する傾向にあります。そのため、「あれもこれも」ではなく「あれかこれか」「ビルド&スクラップ」の予算編成が益々不可欠となっています。

こうした状況に鑑み、ふじのくに県民クラブとしては、例えば、県単独生活環境整備事業費については例年並みの予算額を確保するだけでなく、その内容はライフサイクルコスト等の長期的な視点に立ったものにすべきと考えます。

また、来年度は、現在策定中の次期総合計画の初年度にあたります。11月8日に提言致しましたように、10年後を見通した基本構想で示される将来の種々の課題を克服し、目指すべき静岡県の将来像を実現するために、今後4年間で実行すべき具体的な政策の集大成として位置付けられるものが総合計画であり、そのスタートが来年度予算です。

人口減少・超高齢社会に対応できる、静岡県の将来像を見据えたメリハリある予算を積極果敢に編成されますよう、以下の提言とともに要請致します。